

人と防災未来センターと神戸灘の酒、酒心館 見学

日程： 令和2年2月26日(水) 9:00 JR元町駅東口改札前集合

参加人数：総勢18名でした。

費用：交通費と昼食費(約1100円)は各自で支払い。

「人と防災未来センター入館料」70歳未満 600円、70歳以上300円。

9:05 阪神電車各停で春日野道駅へ移動、徒歩10分で「人と防災未来センター」到着

10:30-11:20 「人と防災未来センター」内の震災追体験フロアで阪神・淡路大震災の
すさまじさを映像で体験および展示フロアで様々な実物資料展示物の見学と学習。

11:30-12:00 阪神電車で岩屋駅から石屋川駅へ移動、徒歩8分で神戸灘の酒 純米醸造酒「福寿」
の酒蔵へ移動 12:00-13:00 純米醸造酒「福寿」の酒蔵見学・利き酒体験後に昼食。

13:30分ごろ阪神石屋川駅付近にて解散。

「人と防災未来センター」の見学：



提供：兵庫メモリアルウォーク2019より

「人と防災未来センター」では西館、東館それぞれに展示
ゾーンが設けられ、これらのゾーンへは1Fの受付から入館、
そして東館(2F、3F、水と防災・減災について学ぶゾーン)
と西館(2F、3F、4F、震災追体験ゾーン)を別々に見学
でき、それぞれに様々な展示物が設けられておりましたが、
我々「垂水マスターズの見楽の会」メンバーは時間の都合上西
館(2F、3F、4F)の震災追体験ゾーンのみを見学。

西館内4Fのシアタールームでは、1995年1月17日午前5:46 当時の生々しい映像紹介や震災体験を
基に、震災を語り継ぐための「ジオラマ模型震災直後の街並み再現」など様々な展示物を見学。
更には、震災経験から学んだ、防災・減災をテーマにしたワークショップの紹介などの見学でした。

1995年1月17日 AM5時46分

兵庫県淡路島北部でマグネチュード7.3を超える地震が発生。「人と防災未来センター」はこの大震災の経験や当時の教訓を継承し、今後大都市を直撃した際の防災・備えや・減災の実現のために必要な情報を発信する目的で建てられた施設です。館内では、展示資料や当時の映像、震災体験などを通して、一人ひとりが災害に対する正しい知識を身につけて頂く様工夫

がなされていました。

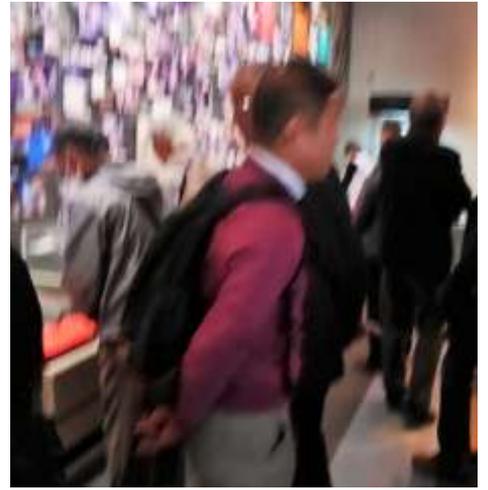


震災当時の地震破壊のすさまじさを映像とジオラマ模型で再現紹介するシアターと展示ゾーン。震災の記録の品々、そして震災を語り継ぐ為の資料の展示コーナー。



防災・未来ギャラリー

提供：人と防災未来センター「観覧案内・展示案内ガイド」、フロアマップより



様々な提供された震災関連資料を真剣に見学する垂水マスターズ

の面々”それぞれに思いは様々の様子“。

前田さん「何か気になりましたか？」

さっきの減災・防災未来ワークショップの備えを進めるコーナーでな！

「大阪のおばちゃんの餛飩あめは非常食か備えか？どっちや？」

そうですね、チェックリストには記載がありませんね

防災減災・体験コーナーで津波の

脅威と避難を体感・学習コーナー

では、垂水マスターズの3名が挑

戦しました。感想は？



11:30に「人と防災未来センター」での見学を終了し、ここで別行動の前田さんとはお別れでした。 続

いて、阪神電車で春日野道駅へ移動。次の目的地「福寿酒造(酒心館)」へ向かう。



ホール・ギャラリー



提供：福寿「酒心館」ホール

神戸「酒心館」ホールは、新しい酒文化の発信ステージとして建てられた、多目的ホールだそうです。

かつての酒蔵を利用した木のぬくもりを感じるやさしい雰囲気の木造ホールとしての特徴ある建物。



提供：神戸酔心館蔵元ショップ「東名蔵」より

酔心館酒造は1751年(宝暦元年)に創業され、十三代にわたり「福寿」の名を守り続けるために手造りに

こだわり続ける酒蔵。そして、お酒の味を左右する麴の良し悪しは、人の五感、だから麴作りは全て手作業で

と、二百年以上昔から受け継がれているルールのように、日本酒の素晴らしさを世界に発信し、広めて行く

為、更に良き酒造りの技にこだわり続けるのです。更に神戸酔心館が造るお酒の全ては、兵庫県米産が原料。

地産地消にも貢献していますとのコメントでした。



利き酒コーナー



お土産コーナー

提供：酔心館、利き酒 + お土産コーナーより



神戸灘の酒 純米醸造酒「酒心館ホール前（福寿酒造）」での記念撮影

以上で令和2年2月26日開催の見楽の会は解散となりました。ご参加の皆様本日

はご苦労様でした。以降は三々五々の解散です。皆さん帰路はお気をつけて！